



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
 総合病院 聖隷三方原病院
 聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
 静岡県浜松市北区三方原町3453
 TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
 編集者 横地健治

2018年9月1日

個別活動

横地 健治

本通信では重症心身障害児者の活動をたびたび取り上げています。今回は、個別活動の重要性について述べます。まず、重症心身障害児者での活動の位置づけを確認しておきます。健常者の世界では、その人の本業（または、仕事）と対比して「活動」の語を使うことが一般的です。そのため、活動は「余暇活動」と同義とされることもあります。これに対し、私たちは重症心身障害児者の本業に対し「活動」の語を用いています。誤解を避けるために、一般社会の「本業」に近いものには「生きがい活動」という名を冠しています。これは達成感・満足感の得られる活動で、この人はこんな人生を送ったと言えるもとなるようなものを指しています。これより本業の程度の薄いものには、「一般的生活活動」と「社会的参加」の名をつけています。

大半の重症心身障害児者は有意な言語理解がありません。こうした人たちの見聞きしたものを理解する能力は、ある月齢の健常乳児（1歳未満）と似ていると考えます。しかし、人生経験は積んでいるので、対人関係の理解はその月齢の健常乳児よりは勝っているだろうと考えられています。よって、有意な言語理解のない重症心身障害児者の活動は健常乳児を参考に立て案し、その人生経験から修正していくものと考えています。

それでは、健常乳児の本業（活動）は何でしょうか。大半の時間を唯一人（母）と過ごすことにより、他者（ヒト）の存在を知り、さらにその理解を深めていきます。一人、あるいは母と共同して、知覚（視覚・聴覚・触覚など）された外界のものの理解を深めていきます。自分の行為（表情・発声・手動作など）が外界をどう変えるのかの理解を深めていきます。こうした高度な学習作業を健常乳児はどんな気持ちで行っているのでしょうか。我々が学習を行う時は相当な意気込みを要します。乳児はもつと淡々として学習しているようにみえます。思った通りにならないことが起これば、あれつと少し嫌な気持ちになり、その解決策を図るのでしよう。そして、功

を奏したなら、やったと少しうれしい気持ちになるのでしよう。こうしたことをくり返し、壮大な学習を成し遂げていきます。これはヒトの種が生まれつき持っている学習マシンと学習本能によってなされるものだと思います。こうした活動の場に、多数の乳児がいたらどうなるでしょうか。この時期では、唯一人（母）以外は心を許せない存在のはずです。そうした他者の存在は、自分の活動への集中を阻害することになるでしょう。乳児の活動は、自分一人か母と二人だけで行うものでしょう。ところで、人生経験を積んだ重症心身障害児者ではどうでしょうか。心を許せないヒトはもつといるかもしれません。それでも、心を許せないヒトの方がずっと多いはずで、重症心身障害児者でも、心を許すヒト（職員）以外の存在は、自分の活動への集中を阻害すると考えるのが自然です。

我々は、自分が成し遂げたことを他者に賞賛されると、その喜びは倍増します。それは、賞賛する他者が自分と同じ価値観を持っていることを事前に知っていて成り立つことです。その存在は、乳児では母です。重症心身障害児者では、限られた職員がこれに当たるかもしれませんが、それ以外のヒトは賞賛者に値しないはずで、なお、健常者では、当人が達成感を感じていないのに、他者に賞賛されたら、嬉しくはなく、とまどうばかりです。これは、乳児でも重症心身障害児者でも同じです。

多数人が同一の目標に向かって協同してことにあたる集団活動があります。それが、成就されたなら皆で喜びを分かち合います。そのためには、全体の中の個の役割を正しく自覚して実践することが求められます。乳児や重症心身障害児者には無理なことです。

一般社会には、同じ場に多数の人たちが集まり、協同して特定の行為を行うこと（行事）があります。皆で楽しむこと（祭）もあります。これらは、帰属する社会の規範・文化を共有するためのものでしょう。そして、参加者は仲間意識や連帯感の高まりを感じるのでしょう。乳児や重症心身障害児者には、こうした社会観はまだ得られていません。

以上のように、有意な言語理解のない重症心身障害児者には、個別活動がもつとも重要であると考えられています。